

平成16年度 活動報告書のフレーム

1 序

2 活動経過

3 団体に共通する課題

(1) 市から独立した主体的経営

市財政への貢献を過度に意識し、顧客は市役所という意識になっている
市と外郭団体の役割分担が不明確
市の方針に左右され団体としての主体性を発揮しにくい

(2) 経営の継続性の確保

経営体の組織としての方向性が経営者の意識によって左右される
経営者の描く団体の将来像が経営ビジョンに反映されていない
団体の置かれている状況に拘わらず、経営者の任期が一律である
人材の育成・登用という視点が弱く、経営の継続性を図れていない
中期経営計画と連動した評価指標や具体的数値目標の設定ができていない
中期経営計画のPDCAサイクルを組織内に確立できていない
中期経営計画が理事会や取締役会に諮られていない

(3) 事業の機動的な再構築

採算性が悪化しても全体収益でカバーし、時機をえた経営判断ができにくい
公共性・公益性が前面に出過ぎて、効率性の判断を遅らせている
外部環境の変化を経営判断に反映していくマーケティング能力が乏しい
収益力や将来性のある分野への大胆な経営資源配分ができにくい

(4) 市民が求めているサービスの提供

市民ニーズをサービスの取捨選択や内容の見直しにつなげていく面が弱い
自らが提供するサービスの水準を他社との比較で把握・分析できていない
サービス見直しの頻度が十分ではなくスピードが遅い

4 団体に共通する助言・提案

(1) 独立した団体としての経営の確立

(2) 中期経営計画の実効性の確保

(3) 顧客志向に基づく経営資源の的確な配分